

二見喜太郎、東大二郎、河原一雅、紙谷孝則、関克典、永川祐二、平野憲二、田村智章、田中千晶、有馬純孝	長期経過からみたクローン病に対する Strictureplasty の有用性.	第59回日本大腸肛門病学会	久留米	2004年11月5日
平野憲二、二見喜太郎、徳永真和、東大二郎、河原一雅、紙谷孝則、関克典、永川祐二、田村智章、田中千晶、有馬純孝	手術を要した虚血性大腸炎7例の検討.	第60回日本大腸肛門病学会	久留米	2004年11月6日
田村智章、東大二郎、二見喜太郎、有馬純孝、頼岡誠、松井敏幸、八尾恒良	クローン病痔瘻病変に対するインフリキシマブ製剤の使用経験.	第61回日本大腸肛門病学会	久留米	2004年11月7日
二見喜太郎	CD肛門病変の外科治療.	第1回日本炎症性腸疾患研究会	東京	2004年12月5日
東大二郎、二見喜太郎、有馬純孝	Crohn病尿路生殖器瘻孔に対する外科治療.	第2回日本炎症性腸疾患研究会	東京	2004年12月6日
Matsuura M, Okazaki K, Tabata Y, Ohana M, Uchida K, Chiba T	Therapeutic Effects of Basic Fibroblast Growth Factor in Dextran Sulfate Sodium-Induced Murine Colitis.	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月26日
Kawasaki K, Okazaki K, Tamaki H, Matsuura M, Chiba T	Overexpression of Thioredoxin-1 in Transgenic Mice Prevents Helicobacter felis Induced Gastritis	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月26日
Nakase H, Okazaki K, Chiba T	Novel Specific Antibodies Against Insertion Element 900 of Mycobacterium Paratuberculosis in Japanese Patients with Crohn's Diseases .	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月27日
Matsuura M, Nishio A, Kawanami C, Nakase H, Tamai H, Asada M, Kawasaki K, Fukui T, Yoshizawa H, Ohashi S, Inoue S, Kiriya K, Kitamura H, Okazaki K	Clinical Significance of Magnifying Endoscopy in the Remission Stage of Ulcerative Colitis.	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月27日

Fukui T, Nishio A, Kitamura H, Inoue S, Kiriya K, Ohashi S, Yoshizawa H, Asada M, Matsuura M, Kawasaki K, Tamai H, Nakase H, Okazaki K, Chiba T	Gastric Mucosal Hyperplasia via Upregulation of Gastrin Induced by Chronic Activation of Gastric Innate Immunity.	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月27日
Matsuzaki M, Yamagata H, Mori S, Yoshida K, Tahashi Y, Furukawa F, Watanabe T, Seki T and Okazaki K	Acceleration of Smad2 and Smad3 Phosphorylation via JNK-Pathway in Human Colorectal Adenoma-Carcinoma sequence.	Colloquium for the Study of Gastrointestinal Defense System (日本消化器免疫学会国際サテライトシンポジウム)		2004年6月27日
Nishio A, Tamaki H, Nakamura H, Yodoi J, Okazaki K, Chiba T	Sulfate Sodium-Induced Murine Colitis.	Colloquium for the Study of Gastrointestinal Defense System (日本消化器免疫学会国際サテライトシンポジウム)		2004年6月27日
河南知晴、八隈秀二郎、岡崎和一	当院で経験した原発性硬化性胆管炎症例における大腸・膵疾患の合併.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21日
松浦 稔、千葉勉、岡崎 和一	basic FGFによる粘膜再生を治療戦略とした炎症性腸疾患の治療法の基礎的検討 (消化器病学会・消化器吸収学会合同：シンポジウム-炎症性腸疾患治療の新しい展開-)	DDW-J		2004年6月27日
玉置敬之、中村肇、西尾彰効、岡崎和一、千葉勉、淀井淳司	Thioredoxin-1 (TRX) 投与は炎症性腸疾患の分子標的治療の一つになりうるか.	第41回日本消化器免疫学会総会	天津	2004年7月16日
松下光伸、高敏博、岡崎和一	潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセットの解析.	第41回日本消化器免疫学会総会	天津	2004年7月17日

研 究 事 業 報 告

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」

平成 16 年度第 1 回総会

期日／平成 16 年 7 月 29 日（木） 9：00～17：00

7 月 30 日（金） 9：00～12：00

場所／味の素株本社ビル（東京都中央区京橋 1-15-1）

主任研究者 日比紀文
(慶應義塾大学医学部内科)

1. プロジェクト責任者によるプロジェクト計画・研究成果の報告は討論含めて 12 分、各個研究発表は 5 分、討論 2 分をお願い致します。
2. 発表は PC プロジェクターをお願い致します。PC 本体の持込を原則とし、35mm スライドプロジェクターはご用意しておりません。メディアでの持込を希望される場合は、CD-R か USB メモリーでご用意いただき、事前に事務局までご連絡ください。
3. 当日、資料を配布される場合は 150 部程度ご用意下さい。

事務局 慶應義塾大学医学部消化器内科

担当 岩男 泰・井上 詠

TEL/FAX : 03-3357-2778

E-mail : ibdhan@sc. itc. keio. ac. jp

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」

平成 16 年度第 1 回総会プログラム

(敬称略)

平成 16 年 7 月 29 日 (木)

開会 (09:00)

I. 厚生労働省健康局疾病対策課挨拶 課長補佐：菊岡修一

II. 主任研究者挨拶・研究の進め方 主任研究者：日比紀文

III. 研究報告

(1) プロジェクト研究 (09:20~09:30)

「データベースの拡充・活用」 責任者：名川弘一

(2) プロジェクト研究 (09:30~09:40)

「疫学的解析」 責任者：武林 亨

(3) プロジェクト研究 (09:40~10:05)

「QOL の評価と改善」 責任者：櫻井俊弘

Crohn 病患者の QOL に対する在宅経腸栄養療法の影響

○櫻井俊弘 (町立芦屋中央病院)、

関 剛彦、松井敏幸、八尾恒良 (福岡大筑紫病院消化器科)

潰瘍性大腸炎手術例の術後 QOL の推移—術式別の縦断的研究—

○杉田 昭 (横浜市立市民病院外科)、橋本秀樹 (帝京大衛生公衆衛生)、

岩男 泰 (慶應大内科)

(4) プロジェクト研究 (10:05~10:25)

内科的治療法の工夫と 2004 年度治療指針案

「潰瘍性大腸炎の難治例治療と緩解維持」 責任者：棟方昭博

潰瘍性大腸炎難治例の緩解維持療法について

○棟方昭博 (弘前大 1 内)

(5) プロジェクト研究 (10:25~10:50)

内科的治療法の工夫と 2004 年度治療指針案

「クローン病の内科治療」 責任者：飯田三雄

クローン病の薬物療法：治療指針の見直し

○飯田三雄 (九州大病態機能内科)

血清食物性 IgG 抗体価からみた食事指導の有用性に関する研究

○福田能啓、堀 和敏、富田寿彦、小坂 正、松本譽之 (兵庫医大消化器内科)、

山村武平、池内浩基 (同 2 外)、高添正和 (社保中央総合病院内科)、

斉藤恵子(同 栄養科)、鳥居 明(慈恵医大消化器内科)、金城福則(琉球大光学診療部)、
樋渡信夫(いわき市立総合磐城共立病院)、守田則一(原学園臨床医学研究所)

(6) プロジェクト研究 (10:50~11:05)

「エビデンスに基づく炎症性腸疾患の診療ガイドライン開発と診療オプションの策定」

責任者：上野文昭

エビデンスに基づいた潰瘍性大腸炎の診療に関するコンセンサス開発

- 上野文昭(大船中央病院消化器肝臓病センター)、
- 尾藤誠司(独立行政法人機構東京医療センター・臨床研究センター)、
- 古宮憲一(同 消化器科) 小林健二(東海大消化器内科)、井上 詠(慶應大内科)

(7) プロジェクト研究 (11:05~11:45)

「疾患関連遺伝子」 責任者：木内喜孝

日本人炎症性腸疾患と IBD5 領域内遺伝子および DLG5 遺伝子

- 木内喜孝、土佐正規、角田洋一、根来健一、高木 承、高橋成一、
- 下瀬川 徹(東北大消化器病態学)、樋渡信夫(いわき市立総合磐城共立病院消化器)

第6染色体短腕に存在する潰瘍性大腸炎感受性遺伝子座位の絞り込み

- 野村栄樹、木内喜孝、根来健一、角田洋一、土佐正規、阿部浩子、高木 承、相原裕之、
- 高橋成一、下瀬川 徹(東北大消化器病態学)、
- 樋渡信夫(いわき市立総合磐城共立病院消化器)

IBDにおける薬剤トランスポーター遺伝子のSNP s解析

- 後藤 啓、中原生哉、岡原 聡、小林敏和、有村佳昭、今井浩三(札幌医大1内)、
- 本谷 聡(札幌厚生病院消化器)

炎症性腸疾患におけるATP結合分子多型の相関(第2報)

- 田村和朗(兵庫医大先端医学研究所家族性腫瘍部門)、高川哲也、武田直久、福田能啓、
- 松本誉之(同 消化器内科)、池内浩基、山村武平(同 2外)

昼食・幹事会 (11:45~13:00)

(8) 再生分科会 (13:00~13:20)

粘膜再生治療「基礎面から」 責任者：土肥多恵子

炎症応答と消化管粘膜再生

- 土肥多恵子(国立国際医療センター研究所)、中島 淳(横浜市大学3内)、
- 小島 至(群馬大生体調節研究所)

(9) 再生分科会 (13:20~14:10)

粘膜再生治療「臨床面から」 責任者：今井浩三

潰瘍性大腸炎における血清MMP-3の検討

- 岡原 聡、後藤 啓、小林敏和、中原生哉、有村佳昭、今井浩三(札幌医大1内)、
- 本谷 聡(札幌厚生病院消化器)

実験大腸炎モデルに対する遺伝子組み換え型ヒトHGFの効果とその作用機序の解明

- 安倍弘生、山本章二郎、中西千尋、上村修司、木村友昭、宮田義史、
- 宇都浩文(宮崎大2内)、沼田政嗣、井戸章雄(京都大付属病院探索医療センター)、
- 坪内博仁(宮崎大2内、京都大付属病院探索医療センター)

TLR ligands の腸上皮細胞創傷治癒に及ぼす影響-第2報-

○飯塚政弘、金野志穂、堀江泰夫、進藤健一、佐藤亜紀子、佐々木健治、
渡辺純夫 (秋田大1内)

腸管上皮細胞の分化制御による上皮修復治療への試み

渡辺 守、○岡本隆一、松本智子、川村央信、土屋輝一郎、中村哲也、
金井隆典 (東京医科歯科大消化器内科)

(10) プロジェクト研究 (14 : 10~15 : 35)

外科的治療法の確立と工夫 責任者：佐々木 巖・杉田 昭

Pouchitis 内視鏡アトラスを用いた新しい診断基準案の検討

佐々木 巖、舟山裕士、○福島浩平、柴田 近、高橋賢一、長尾宗紀、羽根田祥、
渡辺和宏、工藤克昌、神山篤史 (東北大学生体調節外科)

Crohn 病に対する外科治療の現況調査” アンケート調査報告第2報”

佐々木 巖、○舟山裕士、福島浩平、柴田 近、高橋賢一、長尾宗紀、羽根田祥、
渡辺和宏、工藤克昌、神山篤史 (東北大学生体調節外科)

クローン病に対する直腸切断術の適応と問題点

○小金井一隆 (横浜市大市民総合医療センター 難病医療センター)、木村英明、荒井勝彦、
杉田昭、福島恒男 (横浜市立市民病院 外科)

潰瘍性大腸炎手術例の術後妊娠、出産例の集計 (プロジェクト研究)

○杉田 昭 (横浜市立市民病院外科)

クローン病術後経腸栄養療法の再発予防効果の検討-RCT project の進行状況-

○杉田 昭 (横浜市立市民病院外科)

クローン病術後吻合部再発に關与する因子の解析

○蘆田知史、河野 透、綾部時芳、前本篤男、岡本耕太郎、伊藤貴博 稲場勇平、
森一健太郎、田邊浩貴、渡 二郎、斎藤裕輔 高後 裕 (旭川医大3内、同 2外)

クローン病に合併した直腸肛門部癌の検討

○藤井久男 (奈良医大中央内視鏡・超音波部)、小山文一、向川智英、西沼 亮、
児島 祐、勝井鍊太、内本和晃、大槻憲一、中島祥介 (奈良医大消化器・総合外科)

肺梗塞、脳梗塞を合併した潰瘍性大腸炎の手術

○飯合恒夫、谷 達夫、岡本春彦、畠山勝義 (新潟大消化器・一般外科)

IBD における surgical site infection の現状

亀岡信悟、○板橋道朗、小川真平、広澤治一郎、橋本拓造 (東京女子医大2外)

炎症性腸疾患に対する腹腔鏡手術の現況調査”アンケート調査第2報”

佐々木 巖、舟山裕士、福島浩平、柴田 近、○高橋賢一、長尾宗紀、羽根田祥、
渡辺和宏、工藤克昌、神山篤史 (東北大学生体調節外科)

重症潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡手術の成績の検討

佐々木 巖、舟山裕士、福島浩平、柴田 近、高橋賢一、長尾宗紀、羽根田祥、
○渡辺和宏、工藤克昌、神山篤史 (東北大学生体調節外科)

コーヒーブレイク (15 : 35~15 : 50)

(11) プロジェクト研究 (15 : 50~16 : 30)

癌化「サーベイランス法の確立」 責任者：松本誉之

潰瘍性大腸炎長期経過へのサーベイランスシステムの確立 狙撃生検を中心としたサーベイランスによる早期発見の可能性に関する研究

- 松本誉之、樋田信幸（兵庫医大消化器内科）、工藤進英（昭和大横浜北部病院）、春間 賢（川崎医大消化器内科）、名川弘一、渡邊聡明（東京大腫瘍外科）、岩男 泰（慶應大内科）、渡辺憲治、押谷伸英（大阪市大消化器内科）、五十嵐正広（北里大消化器内科）、味岡洋一（新潟大病態病理）

潰瘍性大腸炎長期経過例へのサーベイランスシステムの確立 効率的なサーベイランスを目指したプロジェクト研究（案）について

- 松本誉之、樋田信幸（兵庫医大消化器内科）、工藤進英（昭和大横浜北部病院）、春間 賢（川崎医大消化器内科）、名川弘一、渡邊聡明（東京大腫瘍外科）、岩男 泰（慶應大内科）、渡辺憲治、押谷伸英（大阪市大消化器内科）、五十嵐正広（北里大消化器内科）、味岡洋一（新潟大病態病理）

潰瘍性大腸炎に伴う Colitic cancer における抗 p53 抗体測定の有用性の検討

- 芳沢茂雄、井上 詠、高石官均、岡本 晋、久松理一、緒方晴彦、岩男 泰、日比紀文（慶應大内科）、藤田晴久、河上 裕（同 先端医科学研究所）

(12) プロジェクト研究 (16:30~16:55)

癌化「基礎面から」 責任者：味岡洋一

潰瘍性大腸炎の dysplasia colitic cancer, 背景粘膜における胃幽門腺型粘液発現

- 須田和敬、味岡洋一、渡辺英伸（新潟大分子病態病理学）

Colitic Cancer 発症に関する研究-p53KO マウスを用いて-

- 藤井茂彦、千葉 勉（京都大消化器内科）、藤盛孝博（独協医大病理）

事務局連絡

懇親会 (17:00~)

平成16年7月30日(金)

III. 研究発表(続)

(13) プロジェクト研究 (9:00~10:30)

病態追究「病因解明に向けて」 責任者：千葉 勉

cytokine receptor γ -chain deficient mice ($\gamma c^{-/-}$) における腸炎発症のメカニズムの解析

- 甲斐康之、根津理一郎（大阪労災病院外科）、水島恒和（泉佐野市立病院外科）、玉川浩司、松田宙、伊藤壽記（大阪大学臓器制御外科）

潰瘍性大腸炎-手術例から見たサイトメガロウィルス感染症-

- 池田圭祐、原岡誠司、岩下明德（福岡大筑紫病院病理部）、和田陽子、松井敏幸、八尾恒良（同 消化器科）

潰瘍性大腸炎患者の虫垂リンパ球サブセットの検討

- 松下光伸、岡崎和一（関西医大消化器内科）

自己抗体が認識する腸管上皮細胞由来 Galectin-4 による腸炎の病態形成機序

- 外間 昭、金城福則、豊見山良作、与那嶺吉正、
砂川 隆 (琉球大光学医療診療部・第一内科)
Emiko Mizoguchi, Atsushi Mizoguchi (Harvard Medical School)
大腸筋線維芽細胞の COX 発現について
- 張 卓彬、稲富 理、出口靖之、辻川知之、安藤 朗、佐々木雅也、
藤山佳秀 (滋賀医大消化器内科)
- SAMP1/Yit マウス回腸炎に対する抗接着分子抗体の腸炎抑制効果の検討
- 三浦総一郎、都築義和、穂刈量太、松永久幸 (防衛大2内)
- DSS 腸炎に対するサイクロスポリンの作用機序
- 石黒 陽、棟方昭博、平賀寛人、櫻庭裕丈、山形和史、蝦名佐都子、
藤田 均 (弘前大1内)
- 制御性T細胞による病的粘膜内Memory T細胞制御機構
- 谷本佳奈美、金井隆典、河村貴広、戸塚輝治、渡辺 守 (東京医科歯科大消化器内科)
- 腸管炎症と一酸化炭素ガス
- 内藤裕二、高木智久、坪井寿人、吉田憲正、吉川敏一 (京都府立医大消化器病態制御)
- 抗 ECP 抗体による DSS 腸炎の抑制
- 牧山和也 (長崎大光学医療診療部) 、○七條和子、関根一郎 (同 原研病理)

(14) プロジェクト研究 (10:30~10:50)

- 「腸内細菌の関与」 責任者：藤山佳秀
- 腸管上皮内T細胞 (IEL) によるフローラの制御
- 石川博通 (慶應大微生物学・免疫学) 、木邊量子、辦野義巳 (理化学研究所系統保存)

(15) プロジェクト研究 (10:50~11:05)

- 医師主導の臨床試験の実施とその評価 責任者：高後 裕
- 臨床試験の現況について
- 高後 裕、綾部時芳、蘆田知史 (旭川医大3内)

FK506 の潰瘍性大腸炎を対象とした後期第Ⅱ相臨床試験 (二重盲検群間比較試験)
日比紀文、○緒方晴彦 (慶應大消化器内科)

事務局連絡
閉会の挨拶

平成 16 年度第 1 回総会出席者名簿

平成 16 年 7 月 29 日（木）・30 日（金）

（参加者 143 名）敬省略

班長：日比紀文（慶応大内科）

厚生労働省：菊岡修一

分担研究者：棟方昭博（弘前大学第 1 内科）、藤山佳秀（滋賀医大）、
飯田三雄（九州大学第 2 内科）、石川博通（慶應義塾大学微生物免疫学）、
佐々木巖（東北大学外科）、坪内博仁（宮崎大第 2 内科）、
味岡洋一（新潟大病理）、桜井俊弘（町立芦屋中央病院）、
千葉勉（京都大学消化器内科）、上野文昭（大船中央病院）、
高後裕（旭川医科大学第 3 内科）、松本啓之（兵庫医大消化器内科）、
木内喜孝（東北大学）、武林亨（慶應義塾大学衛生学公衆衛生）、
名川弘一（東京大学腫瘍外科）、杉田昭（横浜市民病院外科）、
杉村一仁（新潟大第 3 内科）、土肥多恵子（IMCJ）、
岡野栄之（慶應義塾大学生理学）、渡辺守（東京医科歯科大学消化器内科）

他班からの研究協力者：岩男泰（慶應義塾大学消化器内科）

顧問：朝倉均（国際医学情報センター）、

他：後藤啓・岡原聡・有村佳昭・小林欽和（札幌医大第 1 内科）、
岡本哲郎（札幌医大第 4 内科）、本谷聡（札幌厚生病院）、矢花崇（札幌厚生病院）、
蘆田知史（旭川医大第 3 内科）、石黒陽・山形和史（弘前大学）、
進藤伸一（秋田大第 1 内科）、飯塚政弘^{他 1 名}（秋田大学）、
福島浩平（東北大学胃腸外科）、渡辺和宏（東北大）、野村栄樹（東北大学消化器科）、
高橋賢一（東北大生体調節外科）、舟山裕士（東北大学）、樋渡信夫（磐城共立病院）、
鈴木健司（新潟大消化器内科）、須田和敬（新潟大病理）、
飯合恒夫（新潟大第 1 外科）、澤田俊夫・鮫島伸一・茂木健太（群馬がんセンター）、
北洞哲治（国際医療福祉大学）、渡邊聡明・小島徹（東京大学外科）、
篠崎大（東京大学）、金井隆典・岡本隆一（東京医科歯科大）、岡村登・谷本佳奈美・
山崎元美（東京医科歯科大学内科）、味村俊樹（帝京大学）、
飯塚文瑛（東京女子医大消化器内科）、板橋道朗（東京女子医科大学第 2 内科）、
亀岡信悟（東京女子医科大学外科）、都築義和（防衛医大第 2 内科）、
烏居明（慈恵医大）、金田理（昭和薬大）、五十嵐正広（北里大学東病院内科）、
高添正和（社会保険中央病院内科）、三浦総一郎（防衛医大）、
小金井一隆（横浜市大）、大塚和朗（昭和大学横浜市北部病院）、
松本啓志・垂水研一（川崎医大）、古賀秀樹（川崎医科大学食道胃腸内科）、
小林拓（名古屋大学）、中野浩（藤田保健衛生大学消化器内科）、

西尾彰功（京都大学）、内藤裕二・高木智久（京都府立医大）、
池内浩基（兵庫医大第2外科）、中埜広樹・高山哲也（兵庫医大第2内科）、
田村和朗（兵庫医科大学先端研）、小山文一（奈良医大消化器外科）、
藤井久男・吉川周作（奈良県立医科大学）、伊藤壽記（大阪大学臓器制御外科）、
稲富理・安藤朗・張卓彬（滋賀医大消化器内科）、岡崎和一（関西医大第3内科）、
藤井茂彦（京都大学消化器内科）、関本和晃（奈良医大消化器外科）、
松田宙（大阪大学臓器制御外科）、玉川浩司（大阪大学第1外科）、
伊藤裕章（大阪大学）、渡辺憲治・押谷伸英（大阪市大）、福田能啓（兵庫医科大学）、
松下光伸（関西医大第3内科）、仲瀬裕志（京都大学）、水島恒和（市立泉佐野病院）、
北野厚生（東住吉森本病院）、宮田充樹（愛知医大消化器内科）、松本主之（九州大
学）、松井敏幸・池田圭祐・関剛彦・平井郁仁・二見喜太郎（福岡大筑紫病院）、
衣笠哲史（福岡大学）、鈴木康夫（福岡大学付属佐倉病院内科）、
安倍弘生・宇都浩文（宮崎大学第2内科）、伊藤浩史（宮崎大学第2病理）、
牧山和也（長崎大光学医療診療部）、外間昭（琉球大）、知念寛（琉球大学第1内科）、
洪卿秀（日本ケミカルリサーチ）、柴田博（旭メディカル）、
菅原慎一郎・藤井克典・丸岡展久（日清キョーリン製薬）、
三倉美保・三橋紀子（太田製薬）、秦野和浩・片山秀樹・岡元泰子（藤沢薬品工業）、
細田栄治（日本抗体研究所）、佐藤慎一（大塚製薬）、木原秀晃（味の素）、
目定雄（IBDネットワークかながわコロナ）、
緒方晴彦・高石官均・岡本晋・鎌田信彦・佐藤俊朗・松岡克善・久松理一・芳沢茂
雄・（慶應義塾大学消化器内科）

事務局：井上詠、青木美和、紅露由希子、高井由貴（慶應義塾大学病院包括先進医療センター）

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」

平成 16 年度第 2 回総会

期日／平成 17 年 1 月 26 日（水） 13：30～17：00

1 月 27 日（木） 9：00～16：00

場所／味の素株本社ビル（東京都中央区京橋 1-15-1）

主任研究者 日比紀文
(慶應義塾大学医学部内科)

1. プロジェクト責任者によるプロジェクト計画・研究成果の報告は討論含めて 15 分、各個研究発表は 5 分、討論 2 分でお願い致します。
2. 発表は PC プロジェクターでお願い致します。PC 本体の持込を原則とし、35mm スライドプロジェクターはご用意しておりません。メディアでの持込を希望される場合は、CD-R か USB メモリーでご用意いただき、事前に事務局までご連絡ください。
3. 厚生労働省への報告の関係で、発表スライドファイルを当日複製させていただきますことをご了承下さい。不都合のある先生は事前に事務局までご連絡ください。
4. 当日、資料を配布される場合は 150 部程度ご用意下さい。

事務局 慶應義塾大学医学部消化器内科

担当 岩男 泰・井上 詠

TEL/FAX : 03-3357-2778

E-mail : ibdhan@sc. itc. keio. ac. jp

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」

平成16年度第2回総会プログラム

(敬称略)

平成17年1月26日(水)

開会(13:30)

I. 厚生労働省健康局疾病対策課挨拶 課長補佐:菊岡修一

II. 主任研究者挨拶・研究の進め方 主任研究者:日比紀文

III. 研究報告

(1) プロジェクト研究(13:50~14:05)

「データベースの拡充・活用」 責任者:名川弘一

「臨床調査個人票」

- 名川弘一(東京大腫瘍外科)、武藤徹一郎(癌研究会附属病院)、
日比紀文(慶應大消化器内科)

(2) プロジェクト研究(14:05~14:20)

「疫学的解析」 責任者:武林 亨

「難治性炎症性腸管障害の罹患、有病、予後に関する疫学研究」

- 武林 亨、西脇祐司(慶應大衛生公衆衛生)、北洞哲治(国際医療福祉大熱海病院内科)、
松岡克善、井上 詠、日比紀文(慶應大消化器内科)

(3) プロジェクト研究(14:20~14:55)

癌化「サーベイランス法の確立」 責任者:松本誉之

プロジェクト研究「潰瘍性大腸炎のサーベイランスとサーベイランスマニュアルの作成」

- 松本誉之、樋田信幸(兵庫医科大)、工藤進英(昭和大学横浜市北部病院)、
春間 賢(川崎医科大)、渡邊聡明、名川弘一(東京大腫瘍外科)、
五十嵐正広(北里大東病院) 岩男 泰(慶應大)、渡辺憲治、押谷信英(大阪市大)、
味岡洋一(新潟大)

潰瘍性大腸炎合併腫瘍における pit pattern 診断の意義:「大腸腫瘍性病変における腺口開口部の診断学的意義の解明に関する研究」班報告

- 工藤進英、田中信治、佐野 寧、西倉 健、田村 智、鶴田 修、檜田博史、大塚和朗、
竹内 司(昭和大横浜市北部病院消化器センター、広島大光学医療診療部、
国立がんセンター東病院、新潟大、高知大、久留米大)

潰瘍性大腸炎における血清 histon 結合 p16 遺伝子検出による colitic cancer 血清診断の試み

- 蘆田 知史、藤谷 幹浩、岡本 耕太郎、坂本 淳、渡 二郎、高後 裕
(旭川医科大第3内科)

(4) プロジェクト研究 (14:55~15:20)

癌化「基礎面から」 責任者：味岡洋一

潰瘍性大腸炎の dysplasia, colitic cancer の2方向性胃分化と bottom-up morphogenesis

○味岡洋一、須田和敬、渡辺英伸 (新潟大分子・病態病理)

潰瘍性大腸炎および Colitic Cancer における REG I 蛋白発現の意義

○関川 昭、福井広一、千葉 勉 (京都大消化器内科)

(5) プロジェクト研究 (15:20~15:45)

「QOL の評価と改善」 責任者：櫻井俊弘

非活動期 Crohn 病患者の QOL

○櫻井俊弘 (町立芦屋中央病院)、関 剛彦、松井敏幸、八尾恒良
(福岡大学筑紫病院消化器科)

潰瘍性大腸炎手術例の術後 QOL-SF36 を用いた回腸囊肛門吻合術と回腸囊肛門管吻合術の縦断研究-

○杉田 昭 (横浜市民病院外科)、橋本秀樹 (帝京大衛生公衆衛生)、
岩男 泰 (慶應大内科)、池内宏基 (兵庫医科大第2外科)、
飯合恒夫 (新潟大消化器、一般外科)、板橋道朗 (東京女子医科大第2外科)

(6) プロジェクト研究 (15:45~16:50)

病態追究「病因解明に向けて」 責任者：千葉 勉

潰瘍性大腸炎患者の虫垂リンパ球サブセットの検討

岡崎和一、○松下光伸 (関西医科大第3内科 (消化器内科))

Germ Free マウス小腸粘膜におけるリンパ球 migration の検討

○都築義和、穂刈量太、竹林晃一、高本俊介、三浦総一郎 (防衛医科大第2内科)

腸間膜リンパ節樹状細胞による Crohn 病病態への関与

○佐藤俊朗、桜庭 篤、松岡克善、久松理一、岡本 晋、日比紀文 (慶應大消化器内科)

MIF トランシジェニックマウスでは DSS 腸炎が増悪する

○武田宏司、大川原辰也、浅香正博 (北海道大消化器病態内科学、第3内科)

DSS 大腸炎の発症・進展とヘムオキシゲナーゼ

○高木智久、内藤裕二、吉川敏一 (京都府立医科大学学生体機能制御学)

ベーチェット病 (BD) 患者末梢血単核球における Streptococcus sanguis の cell wall に対する反応性

○蝦名佐都子、石黒 陽、山形和史、櫻庭裕丈、藤田 均、平賀寛人、島谷孝司、
棟方昭博、中根明夫 (弘前大第1内科、同 細菌学)

IL-10KO マウス腸炎に対する免疫抑制剤 Everolimus (RAD) の治療効果

○松田 宙、伊藤壽記、玉川浩司 (大阪大学大学院臓器制御外科)、甲斐康之、中島清一、
根津理一郎 (大阪労災病院 外科)、水島恒和 (りんくう総合医療センター外科)

事務局連絡

懇親会 (17:00~)

平成17年1月27日(木)

Ⅲ. 研究発表(続)

(7) プロジェクト研究(9:00~9:30)

内科的治療法の工夫と2004年度治療指針案

「潰瘍性大腸炎の難治例治療と緩解維持」 責任者:棟方昭博

潰瘍性大腸炎難治例の緩解維持療法に関する検討

○棟方昭博(弘前大第1内科)

内視鏡所見からみた潰瘍性大腸炎局所療法の評価

藤井久男、○西沼 亮、小山文一、向川智英、児島 祐、勝井錬太、大槻憲一、
中島祥介(奈良医大中央内視鏡・超音波部、同 消化器・総合外科)

サイトメガロウイルス感染を伴った潰瘍性大腸炎の治療と経過

○和田陽子、平井郁二、松井敏幸、八尾恒良(福岡大学筑紫病院消化器科)

(8) プロジェクト研究(9:30~9:55)

内科的治療法の工夫と2004年度治療指針案

「クローン病の内科治療」 責任者:飯田三雄

クローン病に対するインフリキシマブ反復投与の現状と効果:全国アンケート調査から

○飯田三雄(九州大病態機能内科学)

小児クローン病治療指針案

○友政 剛 (パルこどもクリニック)、今野武津子(札幌厚生病院小児科)、
豊田 茂(神奈川県衛生看護専門学校附属病院小児科)、中里 豊(中里小児科)、
根津理一郎(大阪労災病院外科)、米沢俊一(もりおかこども病院小児科)、
三木和典(市立伊丹病院小児科)、金子浩章(群馬大小児生体防御学)、
小林昭夫(東京家政学院大学)

(9) プロジェクト研究(9:55~10:25)

「エビデンスに基づく炎症性腸疾患の診療ガイドライン開発と診療オプションの策定」

責任者:上野文昭

EBM手法と科学的コンセンサス形成法により統合された潰瘍性大腸炎の診療ガイドライン開発

1. 専門家パネル会議とデルファイ法による評価

○尾藤誠司(国立病院東京医療センター臨床疫学部)、小林健二(東海大消化器内科)、
古宮憲一(国立病院東京医療センター消化器科)、井上 詠(慶大包括先進医療センター)、
五十嵐正広(北里大消化器内科)、伊藤裕章(大阪大分子病態内科学)、
正田良介(国立国際医療センター消化器科)、杉田 昭(横浜市民病院外科)、
野口善令(藤田保健衛生大一般内科)、樋渡信夫(いわき市立総合磐城公立病院)、
福島恒男(横浜市民病院)、松井敏幸(福岡大筑紫病院消化器科)、
松本譽之(兵庫医科大下部消化管科)、棟方昭博(弘前大第一内科)、
上野文昭(大船中央病院内科)

EBM手法と科学的コンセンサス形成法により統合された潰瘍性大腸炎の診療ガイドライン開発

2. ステートメント作成と推奨レベルの設定

○小林健二(東海大消化器内科)、尾藤誠司(国立病院東京医療センター臨床疫学部)、
古宮憲一(国立病院東京医療センター消化器科)、井上 詠(慶大包括先進医療センター)、

五十嵐正広（北里大消化器内科）、伊藤裕章（大阪大分子病態内科学）、
正田良介（国立国際医療センター消化器科）、杉田 昭（横浜市民病院外科）、
野口善令（藤田保健衛生大一般内科）、樋渡信夫（いわき市立総合磐城共立病院）、
福島恒男（横浜市民病院）、松井敏幸（福岡大筑紫病院消化器科）、
松本譽之（兵庫医科大下部消化管科）、棟方昭博（弘前大第一内科）、
上野文昭（大船中央病院内科）

(10) 再生分科会（10：25～10：50）

粘膜再生治療「基礎面から」 責任者：土肥多恵子

炎症応答と消化管粘膜再生

○土肥多恵子（国立国際医療センター）、中島 淳（横浜市大第3内科）、
小島 至（群馬大生体調節研究所）

ロタウイルス RNA の腸上皮細胞修復におよぼす影響

○飯塚政弘、佐藤亜紀子、進藤健一、相良志穂、伊藤博彰、堀江泰夫、渡辺純夫
（秋田大第1内科）

(11) 再生分科会（10：50～11：30）

粘膜再生治療「臨床面から」 責任者：今井浩三

骨髄間葉系幹細胞を用いた炎症性腸疾患の治療法の開発

○矢花 崇、後藤 啓、有村佳昭、今井浩三（札幌医大第1内科）

細胞の分化機構を利用した腸管上皮再生治療の試み

○岡本隆一、松本智子、川村央信、大島 茂、土屋輝一郎、中村哲也、金井隆典、渡辺 守
（東京医科歯科大消化器内科）

実験大腸炎モデルにおける HGF の作用機序の解明

坪内博仁、○沼田政嗣、宇都浩文、安倍弘生、山本章二郎、宮田義史、井戸章雄
（宮崎大第2内科、京都大探索医療センター）

実験的炎症性腸疾患モデルに対する HGF（肝細胞増殖因子）の効果と機序

○應田義雄、堀 和敏、樋田信幸、富田寿彦、小坂 正、福永 健、大西国夫、福田能啓、
三輪洋人、松本譽之（兵庫医大下部消化管科・上部消化管科）

昼食・幹事会（11：30～13：00）

(12) 外科的治療法の確立と工夫（13：00～14：30）

責任者：佐々木 巖・杉田 昭

プロジェクト研究：「外科的治療法の確立と工夫」

Crohn 病に対する外科治療成績に関する多施設共同研究

佐々木巖、○舟山裕士、福島浩平、柴田 近、高橋賢一、長尾宗紀、羽根田祥、渡辺和宏、
工藤克昌、神山篤史（東北大学生体調節外科）

炎症性腸疾患に対する腹腔鏡手術手技に関する共同研究

佐々木巖、舟山裕士、福島浩平、柴田 近、○高橋賢一、長尾宗紀、羽根田祥、渡辺和宏、
工藤克昌、神山篤史（東北大学生体調節外科）

回腸囊肛門吻合に緊張がかからないための工夫

○飯合恒夫、谷 達夫、岡本春彦、畠山勝義（新潟大消化器・一般外科）

プロジェクト研究：「回腸囊炎の診断基準」

Pouchitis の管理と予防：班会議診断基準案の検討

佐々木巖、舟山裕士、○福島浩平、柴田 近、高橋賢一、長尾宗紀、羽根田祥、渡辺和宏、
工藤克昌、神山篤史（東北大学生体調節外科）

プロジェクト研究：「潰瘍性大腸炎手術例の術後妊娠、出産の検討」

潰瘍性大腸炎手術例の術後妊娠、出産例の検討-アンケート集計-

○杉田昭（横浜市民病院外科）、佐々木巖（東北大学生体調節外科）

プロジェクト研究：「Crohn 病に合併した肛門病変の診断と治療」

Crohn 病肛門病変の診断と治療-アトラスの作成-

○二見喜太郎、東大二郎、有馬純孝（福岡大筑紫病院外科）

肛門症状先行クローン病症例の検討

○藤井久男（奈良医大中央内視鏡・超音波部）、小山文一、向川智英、西沼 亮、内本和晃、
中島祥介（同消化器・総合外科）、吉川周作、稲次直樹（健生会奈良大腸肛門病センター）

Crohn 病痔瘻に対するレミケードの使用経験

○東大二郎、二見喜太郎、有馬純孝（福岡大筑紫病院外科）

プロジェクト研究：「Crohn 病術後経腸栄養の再発予防効果の検討」

クローン病術後経腸栄養療法の再発予防効果の検討-RCT の進行状況-

○杉田 昭（横浜市民病院外科）

プロジェクト研究：「Crohn 病に対する在宅中心静脈栄養に関する調査研究」

Crohn 病に対する在宅中心静脈栄養に関する調査研究

佐々木巖、舟山裕士、福島浩平、柴田 近、高橋賢一、○長尾宗紀、羽根田祥、渡辺和宏、
工藤克昌、神山篤史（東北大学生体調節外科）

在宅中心静脈栄養を必要とするクローン病症例の検討

亀岡信悟、城谷典保、○板橋道朗、小川真平、曾我直弘、廣澤知一郎、橋本拓造、
吉邑由佳（東京女子医科大学第二外科）、飯塚文瑛、白鳥敬子（同消化器内科）

(13) プロジェクト研究（14：30～15：00）

「疾患関連遺伝子」 責任者：木内喜孝

HLA 領域遺伝子多型と日本人潰瘍性大腸炎との相関解析

○木内義孝、野村栄樹、根来健一、高木 承、高橋成一（東北大消化器病態学分野）

炎症性腸疾患における ATP 結合分子多型の相関（第3報）

○田村和朗（兵庫医大先端医学研究所家族性腫瘍部門）、高川哲也、武田直久、福田能啓、
松本馨之（同 消化器内科）、池内浩基、山村武平（同 第2外科）

(14) プロジェクト研究（15：00～15：25）

「腸内細菌の関与」 責任者：藤山佳秀

潰瘍性大腸炎患者由来 Bacteroides 株の組織培養細胞への付着性の検討

○岡村 登、佐藤賢哉、阿部博幸、千田俊雄

（東京医科歯科大保健衛生学研究科生体防御検査学）

(15) プロジェクト研究 (15:25~15:50)

医師主導の臨床試験の実施とその評価 責任者:高後 裕

クローン病に対する抗菌薬治療 -多施設共同無作為化比較試験-について

○高後 裕 (旭川医科大第3内科)

クローン病における J-TREAT 調査研究について

○蘆田知史、高後 裕 (旭川医科大第3内科)、松本譽之 (兵庫医科大下部消化管科)、

鈴木康夫 (東邦大佐倉病院内科)、伊藤裕章 (大阪大分子病態内科)、

日比紀文 (慶應大学消化器内科)

栄養療法に抵抗性のクローン病におけるアダカラムの有効性と安全性-多施設共同研究-

○福田能啓、福永 健、松本譽之 (兵庫医科大内科・下部消化管科)、

松井敏幸 (福岡大筑紫病院消化器内科)、鈴木康夫 (東邦大佐倉病院内科)、

松本主之 (九大第2内科)、寺野 彰 (獨協医科大消化器内科)、

今村哲理 (札幌厚生病院)、本間 照 (新潟大第3内科)、

高添正和 (社会保険中央総合病院内科)、樋渡信夫 (いわき市立総合磐城共立病院)、

澤田俊夫 (群馬県立がんセンター外科)、矢島知治 (北里研究所病院消化器科)、

田中 伸 (国立病院東京医療センター消化器科)、花井洋行 (浜松医科大光学医療診療部)、

野崎良一 (高野病院大腸肛門センター)、日比紀文 (慶應大消化器内科)

事務局連絡

閉会の挨拶

班 長：日比紀文 (慶應大内科)

厚生労働省：菊岡修一

分担研究者：棟方博昭 (弘前大 1 内)、藤山佳秀 (滋賀医大消化器内科)、味岡洋一 (新潟大病態病理)、
飯田三雄 (九州大病態機能内科)、石川博通 (慶應大微生物免疫学)
佐々木 巖 (東北大生体調節外科)、櫻井俊弘 (福岡大筑紫病院消化器科)、
高後 裕 (旭川医大 3 内)、千葉 勉 (京都大消化器内科)、木内喜孝 (東北大消化器内科)、
武林 亨 (慶應大公衆衛生)・松本蒼之 (大阪市大消化器器官制御内科)、
名川弘一 (東京大腫瘍外科)、杉田 昭 (横浜市大市民医療センター・難病医療センター)、
坪内博仁 (宮崎医大 2 内)、土肥多恵子 (国立国際医療センター消化器疾患研究部)、
杉村一仁 (新潟大消化器内科)、渡辺 守 (東京医科歯科大消化器内科)、
今井浩三 (札幌医大 1 内)

他班よりの研究協力者：岩男 泰 (慶應大内科)

顧問：朝倉 均 (国際医学情報センター)

他：武田宏司 (北海道大 3 内)、蘆田知史 (旭川医大 3 内)、岡本哲郎 (札幌医大 4 内)、
小林歓和、有村佳昭、上野敦盛 (札幌医大 1 内)、本谷 聡、矢衣 崇 (札幌厚生病院)、
石黒 陽、山形和史、蝦名佐都子 (弘前大 1 内)、飯塚政弘 (秋田大 1 内)、
樋渡信夫 (磐城共立病院)、千葉俊美 (岩手医大 1 内)、
舟山裕士、福島浩平、高橋賢一、工藤克昌、長尾宗紀 (東北大胃腸外科)、
澤田俊夫、鮫島伸一、茂木健太 (群馬県立がんセンター)、友政 剛 (群馬大小児科)、
三浦総一郎、都築義和 (防衛医大 2 内)、鈴木康夫 (東邦大佐倉病院内科)、
渡邊聡明、篠崎 大、水島 徹 (東京大腫瘍外科)、尾藤誠司 (東京医療センター)、
味村俊樹 (帝京大外科)、須田武保 (日本医歯大外科)、
金井隆典、中村哲也、岡本隆一 (東京医科歯科大消化器内科)、
岡村 登、千田俊雄、久保田大輔 (東京医科歯科大保健衛生)、
鳥居 明、小林裕彦 (東京慈恵会医大消化器肝臓内科)、
飯塚文瑛、荻部豊彦 (東京女子医大消化器内科)、亀岡信悟、板橋道朗 (東京女子医大 2 外)、
小浄平太 (北里大外科)、五十嵐正広、大塚和朗、檜田博史 (北里大東病院内科)、
小林健二 (東海大消化器内科)、木村英明、小金井一隆 (横浜市大市民医療センター)、
上野文昭 (大船中央病院)、工藤進英、大塚和朗 (昭和大横浜北部病院消化器センター)、
木村英明 (横浜市立市民病院外科)、北洞哲治 (国際医療福祉大学)、飯合恒夫、(新潟大 1 外)、
鈴木健司、河内裕介 (新潟大臓器内科)、丹羽恵子、清水大喜 (新潟大 1 病理)、
長坂光夫 (藤田保健衛生大内科)、宮田充樹 (愛知医大)、荒木俊光、濱口哲也 (三重大 2 外)、

藤井久男（奈良県立医大内視鏡部）、西沼 亮、小山文一（奈良県立医大消化器外科）、
吉川周作（奈良大腸肛門病センター）、仲瀬裕志、西尾彰功、関川 昭（京都大消化器内科）、
井戸章雄（京都大探索医療センター）、内藤裕二、高木智久（京都府立医大1内）、
荒木克夫、辻川知之、安藤 朗、佐々木雅也（滋賀医大消化器内科）、
北野厚生・飯室正樹（東住吉森本病院）、岡崎和一・松下光伸（関西医大3内）、
吉岡和彦（関西医大2外）、渡辺憲治（大阪市立大3内）、伊藤裕章（大阪大分子病態内科）、
伊藤壽記、長谷川順一、水島恒和（りんくう総合医療センター泉佐野病院）、
福田能啓、樋田信幸、應田義雄、高川哲也（兵庫医大消化器内科）、
田村和朗（兵庫医大先端医学研究所家族性腫瘍部門）、山村武平、池内浩基、（兵庫医大2外）、
大平宏喜（広島大一外）、垂水研一、古賀秀樹、清水香代子（川崎医大消化器内科）、
松本主之（九州大病態機能内科）、衣笠哲史（福岡高野病院）、岩下明徳（福岡大筑紫病院病理）、
二見喜太郎、東 大二郎、平野憲治、徳永真和、和田陽子（福岡大筑紫病院外科）、
松井敏幸、深水理恵子（福岡大筑紫病院消化器内科）、牧山和也（長崎大光学医療診療部）、
光山慶一、増田淳也、山野 博（久留米医大2内）、守田則一（原学園臨床医学研究所）、
山本章二郎、宇都浩文、沼田政嗣（宮崎医大2内）、
金城福則、青木一人、知念 寛（琉球大1内）、
大原博民、秦野和浩（藤沢薬品）、金川章孝、柴田 博（旭化成メディカル）、
岡本正人、尾崎邦彦、守野洋一（田辺製薬）、桜井伸也、岡安源浩（UCB）、
山元 充、神田徳雄、上山直樹、チュアエバン、石田美紀、植村真理、楠 敦（大塚製薬）、
菅原慎一郎、小林隆美、相澤奈穂、藤井克典、丸田展久（日清キョーリン）、
横須賀秀人（エーザイ）、東谷智恵理、小柳勝義、藤沢マルシア、秦野和浩、（藤沢薬品）、
中村修二、細井栄治、笠原貴志、槌屋紘典（日本抗体研究所）、
西脇祐司（慶應大公衆衛生）
緒方晴彦、井上 詠、高石官均、矢島知治、松岡克善、佐藤俊朗、中澤 敦、泉谷幹子、小林 拓、
仲居貴明、鎌田信彦（慶應大内科）

事務局：高井由貴、紅露由希子（慶応包括先進医療センター）